＜日本文學・語言・文化＞
國際研究論壇：知與體驗

會議手冊

時間：2017年6月10日（六）

會場：文藻外語大學 至善樓十五樓國璽會議廳

〈日本文學· 語言· 文化〉
國際研究論壇：知與體驗

〈日本文学· 言語· 文化〉
国際研究フォーラム
––知と体験

時間：2017 年 6 月 10 日（土）

場所：文藻外語大学至善楼 15F 國璽会議廳

主催：文藻外語大学日本語文系

協催：One Asia Foundation

後援：教育部

目次

一、プログラム 4

二、基調講演

藤井省三

東アジアの文学交流—魯迅と日本の近代作家 6

三、研究フォーラム「東アジアの中の文学者——知と体験」

藤井省三（東京大学教授） 10

林水福（南台科技大学教授） 13

朱秋而（台湾大学教授） 17

林淑丹（文藻外語大学教授・学科主任） 20

四、論文発表

（一）文学

日本的漢文小説《賢乎己》初探 24

文藻外語大學　盧秀満

「もののあはれ」中譯考

–其本質意、各作者的使用意、及本居宣長的解釋意– 26

文藻外語大學　黄佳慧

芥川龍之介の後日談について—「トロッコ」を中心に 28

文藻外語大學　楊淑容

1950 年代における炭鉱記録と『にあんちゃん』（1958 年） 30

同志社大学博士後期課程　姜文姬

（二）日本語学・教育

話しことばにおける接続表現の習得についての事例分析 32

東吳大学　陳美玲

モダリティ形式の特徴から見る

日本語の「だろう」と中国語の“吧” 34

文藻外語大學　方斐麗

日本語らしさ」へのアクセント句の影響

「—連体修飾節を中心に—」 36

文藻外語大學　黄思瑋

スピーチ・ディベートの引用資料からみる

台湾人学生のメディアリテラシー 38

文藻外語大學　小高裕次

遠距教學之學習成效探討—以文藻韓文一課程為例 40

文藻外語大學　鄭恩英

日語教育的知與體驗—以文藻學生的日本海外實習為例 42

文藻外語大學　謝億榮

（三）歴史・社会・文化

一次資料で紐解く日本統治下台湾の紙芝居の展開
—台南の末広公学校の実践活動を中心に— 44
南臺科技大學　黄幼欣
台湾を旅する紙芝居文化—受容・変容の観点からの考察 46
屏東大學　傅玉香
後藤新平の「帝都復興」政策からみる「生物学の原則」 48
義守大学　謝宗倫
Settler Colonization に関わる
日本・ドイツ・植民地期台湾の知的連関
—東郷実と高岡熊雄のドイツ内国植民研究— 50
同志社大学　番匠健一
日本的攝影與文化—探討當代攝影家畠山直哉的作品 52
國立臺南大學　范如菀
日本の原子力政策に関する一歴史社会学的考察 54
文藻外語大學　李姵蓉
国家意識の養成—『公學校地理書第二種』を中心に 56
文藻外語大學　陳淑瑩
1904 年および 1907 年の公学校規則改正にみる
山口喜一郎の公学校への考え 58
文藻外語大學　安達信裕

五、コメンテーター

賴衍宏 61
齋藤正志 62
賴錦雀 63
洪心怡 64
陳志文 65
林蕙美 66
林嘉惠 67
邱若山 68
林潔 69
何思慎 70
陳文松 71

六、スタッフ 73

プログラム

＜日本文学・言語・文化＞国際研究フォーラム——知と体験

時間	プログラム				会場
9：00-9：30	受付				至善楼 13F
9：30-9：40	開会式 中郡錦藏（公益財団法人日本台湾交流協会 高雄事務所所長） 陳立言　（文藻外語大学副校長）				至善楼 15F 國璽会議廳
9：40-10：30	基調講演　「東アジアの文学交流——魯迅と日本の近代作家」 講 演 者　藤井省三（東京大学教授） 司 会 者　林淑丹　（文藻外語大学教授・学科主任）				
10：30-10：50	休憩				
10：50-11：50	研究フォーラム　「東アジアの中の文学者——知と体験」 パネリスト　藤井省三（東京大学教授） 林水福　（南台科技大学教授） 朱秋而　（台湾大学教授） 林淑丹　（文藻外語大学教授・学科主任） 司 会 者　段裕行　（文藻外語大学助理教授）				至善楼 15F 國璽会議廳
12：00-13：30	昼食				至善楼 16F
	論文発表（発表 20 分、コメント 5 分、討論 10 分）				
	文学	日本語学・教育		歴史・社会・文化	
	会場 A　Z1211	会場 B　Z1307	会場 C　Z1308	会場 D　Z1309	会場 E　Z1310
13：30-14：10	発表者　盧秀満（文藻外語大学副教授） 日本の漢文小説《賢乎己》の研究 コメンテーター 賴衍宏 （靜宜大学副教授）	発表者　陳美玲（東吳大学副教授） 話しことばにおける接続表現の習得についての事例分析 コメンテーター 賴錦雀 （東吳大学教授）	発表者　小高裕次（文藻外語大学助理教授） スピーチ・ディベートの引用資料からみる台湾人学生のメディアリテラシー コメンテーター 陳志文 （高雄大学教授）	発表者　黄幼欣（南台科技大学副教授） 一次資料で紐解く日本統治下台湾の紙芝居の展開—台南の末広公学校の実践活動を中心に コメンテーター 林嘉惠 （東海大学副教授）	発表者　范如菀（台南大学助理教授） 日本の写真と文化—写真家畠山直哉の作品を中心に コメンテーター 林潔 （文藻外語大学研発長）
14：20-15：00	発表者　黄佳慧（文藻外語大学兼任助理教授） 「もののあはれ」の中国語訳をめぐって—その本来の語意・各作者による趣意・宣長による釈義 コメンテーター 賴衍宏 （靜宜大学副教授）	発表者　方斐麗（文藻外語大学助理教授） モダリティ形式の特徴から見る日本語の「だろう」と中国語の“吧” コメンテーター 賴錦雀 （東吳大学教授）	発表者　鄭恩英（文藻外語大学専案講師） 遠距教學之學習成效探討—以文藻韓文一課程為例 コメンテーター 陳志文 （高雄大学教授）	発表者　傅玉香（屏東大学副教授） 台湾を旅する紙芝居文化—受容・変容の観点からの考察 コメンテーター 林嘉惠 （東海大学副教授）	発表者　李姵蓉（文藻外語大学助理教授） 日本の原子力政策に関する一歴史社会学的考察 コメンテーター 何思慎 （輔仁大学教授）

15：10-15：50	発表者　楊淑容 （文藻外語大学講師） 芥川龍之介の後日談について―「トロッコ」を中心に コメンテーター 齋藤正志 （中国文化大学副教授）	発表者　黄思瑋 （文藻外語大学助理教授） 「日本語らしさ」へのアクセント句の影響―連体修飾節を中心に コメンテーター 洪心怡 （高雄第一科技大学副教授）	発表者　謝億榮 （文藻外語大学助理教授） 日本語教育における知と体験―文藻の学生における日本での海外企業インターンシップを例に コメンテーター 林蕙美 （高雄第一科技大学助理教授）	発表者　謝宗倫 （義守大学兼任講師） 後藤新平の「帝都復興」政策からみる「生物学の原則」 コメンテーター 邱若山 （靜宜大学副教授）	発表者　陳淑瑩 （文藻外語大学副教授） 国家意識の養成―『公學校地理書第二種』を中心に コメンテーター 陳文松 （成功大学副教授）
16：00-16：40	発表者　姜文姬 （同志社大学博士後期課程） 1950 年代における炭鉱記録と『にあんちゃん』（1958 年） コメンテーター 齋藤正志 （中国文化大学副教授）			発表者　番匠健一 （同志社大学＜奄美・琉球・沖縄＞センター 研究員） Settler Colonization に関わる日本・ドイツ・植民地期台湾の知的連関―東郷実と高岡熊雄のドイツ内国植民研究 コメンテーター 邱若山 （靜宜大学副教授）	発表者　安達信裕 （文藻外語大学助理教授） 1904 年および 1907 年の公学校規則改正にみる山口喜一郎の公学校への考え コメンテーター 陳文松 （成功大学副教授）

主催：文藻外語大学日本語文系
協催：**One Asia Foundation**
後援：教育部

盧秀滿

現　　職	文藻外語大學應用華語文系暨華語文教學研究所　副教授
專門領域	中國古典小說　中日比較文學
学歷・経歷	日本國立廣島大學文學研究科博士
研究業績 (五点以内)	(專書) 《冥法、菆柩、鬼祟、齋醮－《夷堅志》之幽鬼世界》，（台北：萬卷樓圖書股份有限公司，頁 1-326，2013 年。） (專書、期刊論文) 〈石川鴻斎『夜窓鬼談』における袁枚『子不語』の継承と創意－「縊鬼」を中心として－〉，收入《富永一登先生退休記念論集－中国古典テクストとの対話》，（東京：研文出版，頁 479－499，2015 年。） 〈中國筆記小說所記載之「避煞」習俗及「煞神」形象探討〉，《師大學報》第 57 卷第 1 期，國立台灣師範大學，頁 23-53，（2012 年。） (研討會論文) 〈宋代文言小說所記載之醫者群相及醫德觀探討〉，2015 第四屆敘事文學與文化國際學術研討會，台北：國立台灣師範大學國文系、國立臺灣師範大學圖書館、中央研究院中國文哲研究所主辦。(2015 年 11 月 07 日。) 〈洪邁《夷堅志》所記載之宋代土地神傳說與信仰〉，第八屆古典與現代學術研討會，高雄：文藻外語大學主辦。（2015 年 05 月 30 日。）

日本的漢文小說《賢乎己》初探

《賢乎己》一書，是成書於日本幕末時期的一本漢文小說集，其所載內容由書前之自序可知，主要是作者「漫記所聞見」而來，顯見其內容在某種程度上反映了江戶晚期日本社會的某些現象、價值觀與文化側面。

然而，或許是因為作者井元行之生平不詳，歷來有關此書之相關研究甚少，讓人頗感遺憾。但細覽其文，即可感受到作者深厚的漢文底蘊，以及隱含在內容中的撰文意圖，透過對此書內容之探討，不僅可以讓人一窺幕末時期日本士庶的思想觀念、價值取向與文化的某些側面外，更能從中發現到中國文學、思想等在此書中的顯現，以及中日文化交融後所產生的結果。

基於上述，本文擬從：作者井元行其人，《賢乎己》一書的取材內容與撰寫企圖，書中對中國文學、思想的融入與化用，以及幕末時期日本士庶的生活側面與文化等各個方面，進行深入的探討與分析，試圖從中發掘此書所成就的文本價值。雖然作者之生平不為人知，極有可能會影響到論述者在探討過程中某些推測的不確定性，甚是可惜，然書中所呈現之清晰的作者個人觀點以及明確的撰寫企圖，是顯而易見的。因此，透過對其內容的詳細剖析，相信可以讓《賢乎己》作者的著書意圖與心血，能得到相應的闡明。